福岡教育大学大学院教職実践専攻年報　第12号　209-210（2022）

［課題演習概要］

子どもの個性を生かす生活科学習指導
―子どもの思いや願いの具現化に着目して―

野　田　晴　香
Haruka NODA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：生活科学習指導，個性，子どもの思いや願い，具現化，体験活動と表現活動の往還，場の工夫，冊子によるふり返り

1　研究の目的

「令和の日本型学校教育の構築を目指して～個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」(2021)において，学習の個性化には子どもの興味・関心に即した選択肢があり，それに集中できる学びが保証される必要があると述べられている。このことを踏まえると，子どもの思いや願いを具現化し，選択肢を与えることで,子どもの個性を生かす生活科学習を展開することができると考えた。そこで本研究では，生活科学習の具体的な活動を通して子どもの思いや願いを具現化する中で，自分自身の可能性を発見すること，行動の仕方の中にある自他のよさに気付くこと，これからも挑戦したいという自信をもつこと，それらを認め合うことができる力を育成すること，つまり，子どもの個性を生かす生活科学習指導のあり方を明らかにしていく。

2　研究の計画

4～5 月	先行研究
6～12 月	授業実践
12 月	授業実践，成果の分析・まとめ

3　研究の内容

(1)研究の概要

先行研究において，芋生(1993)は子どもの思いや願いの深まり・広がりを具体的に「直感的な願い」「創造的な願い」「価値的な願い」の３段階で示している。

私はこの３段階に加え，生活に生かしながらこれからの生活の在り方につなげていく「発展的な願い」の４段階に沿って子どもの思いや願いが深まり・広がりをもつと考えた。

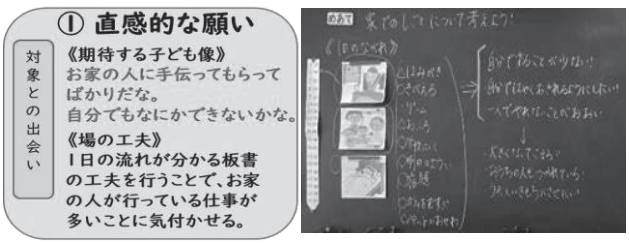
その４段階の子どもの思いや願いは，単元の中で体験活動と表現活動を往還することで連続・発展していくと考える。それによって，自分自身の可能性を発見し，これからも挑戦していきたいという自信につながる。また，子どもが自らのよさや可能性，成長に気付くためには，学習のふり返りが重要となる。

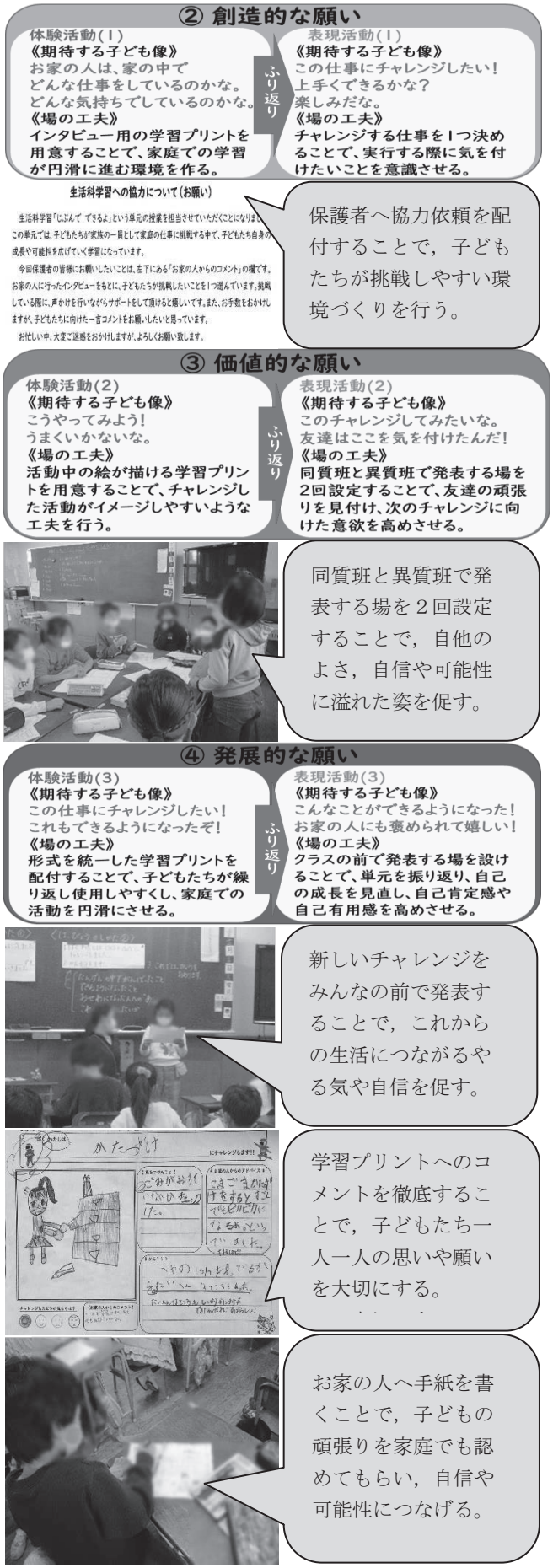
本研究では，体験活動と表現活動を往還する中で子どもの思いや願いの深まり・広がりを促すための手立てとして，子どもの思いや願いが連続・発展し，個性が生かされる「場の工夫」と自分自身の思いや願いを常に思い出すことができる表現物による「ふり返り」の２つを構想した。

(2)授業実践

単元名	じぶんで できるよ
配当時間	7 時間
学習者	A 市 B 小学校第 2 学年
単元の目標	家庭での生活をふり返り，家庭での生活は互いに支え合っていることに気付き，自分の役割を積極的に果たすとともに，友達の役割のよさを見付け，自分も挑戦しようとすることができるようにする。

(3)単元構成と場の工夫及びふり返り





4　成果と課題

子どもたちの思いや願いを４段階に分析し，体験活動と表現活動を往還する中，以下の表のような子どもたちの個性が具現化された。

【表　活動の中で具現化された個性】

	A児	B児	C児	D児
自他のよさ	③みんないいなと思った。 ④お箸洗いと片付けを頑張った。	④掃除を端から端まで、一番頑張った。	③学校に行く前にゴミ出しをしてすごい。	④掃除と料理を頑張った。
認め合い	③ご飯の献立を考えるのをやってみたい。 ④前までこんなに家の人が頑張っていたんだなと思った。	③床掃除の仕方を真似したい。	③袖をあげれば手が濡れないと教えてくれた。	③掃除で隅々まできれいにしたのがいい。
自信	④苦手なのに楽しくなってきた。	③掃除をしたら綺麗になって嬉しかった。 ④お母さんに喜んでもらえた。	③お母さんが嬉しそうだったし、ほめられて嬉しかった。 ④お姉ちゃんとお母さんが「美味しい」って言ってくれて嬉しかった。	③家族を喜ばせたい。 ④料理ができるようになった。
可能性	④お箸を洗ったら次は食器も洗いたくなった。 ④これからもっと自分でできることを増やしたい。	④これからもいっぱいお手伝いをして役に立てたらいいな。	④これからも続けたい。	③次は料理にチャレンジしたい。 ④これから自分で作れる時はしようかな。

（成果○課題●）

子どもたちの思いや願いを具現化することで，以下のような成果と課題が明らかになった。

○ 場の工夫や学習プリントによるふり返りを行うことで，「掃除をしたら綺麗になって嬉しかった(自信)」「これから自分で出来ることをもっと増やしたいなあ(可能性)」とこれからの生活につながるような姿や記述が見られ，個性を生かすことができた。

○ 体験活動と表現活動の往還として，仕事をする場を２回，発表の場を２回設定することで「みんないいなと思った(他者のよさ)」と自身の頑張りを認める姿が見られた。

● 体験活動を行う場が学校外であるため，活動をしている姿をみとることが出来ない。よって，活動の場が見えるようにICTや写真等を活用することで，発表の際に具体的なイメージを相手に伝えることができるようにする。

主な引用・参考文献

文部科学省　2017　小学校学習指導要領解説生活編
文部科学省　1998　教育課程審議会答申
渋谷憲一　1995　日本学校教育学会「個性を生かす教育」の現状と課題
芋生修一　1993　平成４年度福岡県長期派遣研修報告「自己の願いが生きる生活科学習―意欲的に活動する場の工夫―」
須本良夫　2018　生活科で子どもは何を学ぶかーキーワードはカリキュラム・マネジメントー
加藤幸次　1989　個性を生かす先生（図書文化）
加藤幸次　2021　「『指導の個別化』『学習の個性化』で授業のモードを変える」新教育ライブラリPremierII Vol.2「令和の『個別最適な学び・協働的な学び』～学びのパラダイムシフト～」（ぎょうせい）